

## 『杉二小改築基本方針（たたき台）』についての意見

### A. 『改築基本方針（たたき台）』の総合的な意見

#### 1) ビジョンや目標の設定には根拠が必要

- ◆ 方針の目標設定には、目標の根拠が必要である。
- ◆ たたき台は、要望を簡潔に集約してはいるが、要望の理由が示されていないので、提案されている項目が適切かは判断することが難しい。
- ◆ 目標の根拠は、次のことを念頭にしておきたい。
  - ◆ 公立小学校の社会的意義に基づくことが望ましい。児童は社会再生産の要であり、学校は社会の持続を可能とする公共機関。学校は社会再生産（人間社会が継続するために必要な社会条件を常に作り出すこと）を促すことが大切で、学校のデザインもその公的な役割を果たすために貢献できるデザインと考える。
  - ◆ 根拠になるものは、現在から 80 年後までの状況を根拠として目標設定を行うべき（例えば、ICT は今の教育方針で、目標として設定できるか）
  - ◆ 根拠付けのデータや未来像（理想なビジョン）が必要
    - 人口変動（年齢別、外国人）
    - 地域社会の変化（温度、降水量）
    - エネルギー、通信技術などの進歩
    - 気候変動による災害増加、平均気温
    - 教育方針の大きなビジョン
    - など
  - ◆ 教育委員会として教育哲学、教育方針について説明をお願いしたい。学校の改築に、教育者の皆さんの教育上の目標が大切だと考え、それを改築検討懇談会の委員が理解した上で議論することが必要である。例えば、平成 26 年の『杉並区立小中学校新しい学校づくり推進基本方針』（杉並区教育委員会）に書かれている方針などの中で、特に念頭に置くべきビジョンは何かについて、教育当事者から伺いたい。

#### 2) 「基本方針」に関しての検討期間について

- ◆ 「基本方針」を検討する期間が 25 日間はあまりにも短すぎる。
- ◆ これだけの資料を団体メンバーに伝えて、それを理解するにあたって分析したり調べたりして、さらに意見をまとめる作業は極めて難しい。

- ◆ また、意見設定の根拠などが整理されていないので、教育委員会からの意見、そしてその根拠を改築検討懇談会で共有をして欲しい。
- ◆ 『改築ニュース』を在校生の家庭、学校関係者に配布して欲しい（改築に関して学校のみんなが関心を持ち、またそのことに関して意見を述べる機会を設ける）

## B. 『改築基本方針（たたき台）』のビジョン、目標、取組について

### 1) 工事期間についてのビジョンを基本方針に組み込む【追加のビジョン】

- ◆ 在校生の現在の生活を守り、改築をアクティブラーニングの教材とする。
- ◆ <根拠> 現在、児童の居場所が地域から消えている。児童館が閉鎖したり、公園の改修工事（善福寺川緑地公園）が続く中、地域の児童が遊べる場所を確保する。
- ◆ <根拠> 何十年に一度の機会を活かし、この改築事業を生徒の育成、そして地域づくりに役立てる。プロセスも設計と考える。
- ◆ <取組み> 児童に負担がかからないような工程を組むこと。
  - ◆ 公園を活用し児童が使える校庭スペースを確保する。杉二小 / 東田中が公園を優先的に使えるように東京都建設局にお願いすることを要請する。
  - ◆ 工事時期は、児童が公園に移動できるよう、校舎と公園の動線（三年坂）を保つか、新しい動線を設置する。そのため、歩道橋を仮設置することも検討する。また、安全確保のために、臨時スタッフを雇用する。
- ◆ <取組み> 学校関係者、そして児童が設計と工事に参加できるような工夫をする。
  - ◆ 改築事業に児童が積極的に関わることで、学習の場として活用し、改築の「しょうがない犠牲」というマイナスなイメージから、「特別に学べるチャンス」としてプラスな機会に転換する。
  - ◆ 児童が学校ビオトープや遊具の設計に参加できるデザインプロセスを計画し、実行する。

### 2) 「みんなで作る学校」を基本方針に組み込む

【追加のビジョン、もしくはビジョン3と組み合わせる】

- ◆ <根拠> 井出隆安教育長の教育ビジョンは「いいまちはいい学校を育てるー学校つくりはまちつくりー」である。この「つくり」とは教育方針、教材、カリキュラム、教員育成などを指しているだけでなく、学校（校舎、校庭）を建築、建設することも含まれていると理解する。
- ◆ <根拠> 『杉並区立小中学校新しい学校つくり推進基本方針』（杉並区教育委員会 平成26年2月）の「第5 地域との連携による新しい学校づくり」にも次のように書かれている。
  - ◆ 「教育ビジョンでは、『家庭・地域・学校のつながりを重視した、共に支える教育を進める』こととし、これらの三者が信頼関係を育むことで、学校を核とした地域の絆を深めていくことを目指しています。同時に学校は、子どもたちの学びの場にとどまらず、人が行き交い、つながりが生まれる地域の拠点でもあるため、地域と共に歩む『新たな公共空間』としての教育基盤を整えることも目標としています。」
  - ◆ このビジョンに描かれている学校を実現するには、学校づくりから始めないといけない。「人が行き交い、つながりが生まれる地域の拠点」となる学校を実現するには、学校のデザインから人が行き交い、つながりが生まれるような取組が必要であり、その体制づくり、そしてそのプロセスを促す取組が必要。
- ◆ <取組> わかりやすい文章を使い、目標を設定する。子どもでも、一般人でも分かる言葉を使う

### 3) ビオトープ【ビジョン1、ビジョン2、ビジョン3】

- ◆ 杉二小のビオトープは杉並区の最大規模でもあり、杉二小の特徴でもある。
- ◆ ビオトープ作りとは、「環境と調和した景観形成」（ビジョン2、取組G）だけを目標としているのではなく、地域の自然環境の保全に貢献をし、また教育的効果もある。「景観」として捉えると、飾り物だけで終わりかねない。
  - ◆ 地域の生物多様性の保全、そしてその多様な生き物を支える豊かな生態系のネットワーク（善福寺川を始め、周辺の生息地）の形成。（鳥や昆虫など野生動物も地域の一員として考えて欲しい）。
  - ◆ 学校敷地内で環境学習とともに、「いのち」の尊さに関する道徳や倫理を学ぶ貴重な場である。

- ◆ 学校ビオトープは地域づくり。地域と一緒に歩む学校づくりの手段である。
- ◆ 東京都の「パークマネジメントマスタープラン」(東京都建設局 平成27年)には、水と緑の骨格軸形成プロジェクトが計画されており、杉二小のビオトープは水と緑のネットワークの中で大切なハブとなる。
- ◆ 地域の環境に配慮するには、在来種を中心としたビオトープ作りを徹底する。
  - ◆ 現在、特定外来種(生態系のバランスに害を及ぼすため駆除の対象と環境省が定めている動植物の種)であるオオフサモが杉二小の校庭にあるので、改築の時には要注意。(拡散しないように工事前に駆除が必要)
  - ◆ 地域の在来種をビオトープに入れることで、地域の生き物が生息地として利用できる。
- ◆ 今のビオトープに生息している動植物は、12年前に先生が杉二小の児童と計画して考えて入れた種が多く、貴重な種もある。その動植物を保護しながら工事中を続けて欲しい。
  - ◆ 工程上、ビオトープを一時的に撤去しないといけない場合は、仮のビオトープを準備し、動植物を避難させて工事を進める。
  - ◆ 工事中には、アズマヒキガエルの保護、特に産卵時期に注意する。特に、1月～6月はビオトープに悪影響を及ぼさないようにする。
  - ◆ 工事が始まる前に、ビオトープへの影響を査定する。(環境アセスメント)。地域の専門家にビオトープの動植物のカタログや、そして定期的なモニタリングをお願いする。
- ◆ ビオトープの設置場所
  - ◆ ビオトープは、児童の動線中に設置する。例えば、正門から校舎の間に置く。校舎の裏など、大人が目が届きにくい場所には設置したくない。
  - ◆ 学校敷地の高低差を利用して、流れのあるビオトープを実現したい。ポンプなどで循環をできるように考える。ビオトープにとって、流れは重要であることを念頭におく。また、貯めた雨水をビオトープに供給する。

#### 4) 自然の循環を考えた学校【ビジョン2、目標III】

- ◆ 水の循環を考える。杉二小には善福寺川とその氾濫原(低地)に隣接しているので、雨水から川、そして東京湾/太平洋までの水文学的な循環を考

えるのに適した立地にある。杉二小の改築は、東京湾の汚染を改善する取り組みに貢献できる。

- ◆ 空気の循環を考える：善福寺川は涼しい風の道となっている。湧き水のおかげで、夏でも涼しい。その風通しの良さを活かした建築が良い。クールタワーなどを丘の尾根側（鎌倉街道）の校舎に設置することにより、善福寺川＞緑地＞東側の校舎＞北側の校舎＞尾根と空気が抜けることになる。
- ◆ 自然の光をできるだけ活用できるような仕組みを作ることで、電気消費量を削減することができる。
- ◆ 太陽光パネルを設置する場合は、発電量や使用量の表示などを児童がモニターし、発電装置を調整できるような仕組みを作る。
- ◆ 「環境と調和した景観形成」（ビジョン2、取組G）は訂正して欲しい。景観は大事であるが、景観だけではなく、杉二小が実質的に地域の自然環境に役立つことが望ましい。そのため、雨水蓄積や雨水浸透を積極的に行い、気候変動による水害の多発予防や温度上昇の緩和を試みる。
- ◆ 国土交通省や環境省が取り組んでいる「グリーンインフラ」の事例を参考にする。

## 5) 善福寺川を中心にする【ビジョン2、目標III&IV】

- ◆ 「善福寺川緑地等」を「善福寺川と河畔緑地」と表す。緑地だけではなく、河川に重点を置くことが大事である。
- ◆ これからの社会、そして社会資本整備は、自然を制覇するのではなく、自然と共存することを目標とする。川は人類より以前、そして人工の「緑地」より以前に存在するものであり、その恵と災いを理解し、共存方法を模索する。
- ◆ 国土交通省が平成28年に発表した『生産性革命プロジェクト』には「河川空間活用イノベーション」を提案。
- ◆ この地域にとって、具体的に「災害」とは何かを示すべき。地震だけでなく、善福寺川の氾濫や水害にも対応するため。

## 6) 善福寺川緑地にアクセスしやすく工夫する【追加の取組】

- ◆ 直接学校から公園に行けることが望ましい。学校と公園と校庭を結ぶ動線が欲しく、道路をできるだけ避けたいので、歩道橋や地下のトンネルなどで直接のアクセスポイントが欲しい。

◆ 先生方も希望していることである。

7 ) <ビジョン 1 これまでの杉二小の伝統と特徴を継承するとともに、高機能かつ多機能で変化に対応できる学校づくりに取り組みます >

◆ 【分かりやすい言葉】昔を学び、未来を目指す学校 (温故知新)

◆ 「杉二小の伝統と特徴」とは具体的に何か。この議論をして、答えを出さないと、空虚な表現となり、逆に特徴がなさそうに聞こえかねない。

◆ 例えば、子供に聞くと、次のような特徴が見えてくる。(質問は「杉二小でしかないもの、もしくは杉二小の特徴は何ですか?」)

ウィンドバンド

杉並区で最大のビオトープ、オットセイ池

善福寺川とその広い緑地

児童はみんな挨拶できる

広くて大木が多い校庭

歴史がある

谷川俊太郎さんの母校

(他の方々にお聞きすると、別の特徴も見えてくると思う。)

◆ 「高機能かつ多機能で変化に対応できる」

◆ このような曖昧な表現より、もっと具体的な提案が欲しい。

◆ 「変化」とはどのような変化を想像しているかを具体的に示すべきではないか。人口変動、気候、経済、土地利用、教育環境、労働市場、などさまざまな変動が想定できると思うので、その変化についてはさらに議論するべきである。

8 ) <ビジョン 2 善福寺川緑地と隣接する敷地特徴を生かし、周辺環境と調和し、安全・安心で快適な生活空間としての学校をつくります >

◆ 【分かりやすい言葉】川に包まれた、丘の上の学校

◆ 【根拠】国土交通省が平成 28 年に発表した『生産性革命プロジェクト』は「河川空間活用イノベーション」を提案。

◆ 善福寺川を中心にするにより、すべての命(人間、緑)の源である水を考えることができ、生物多様性、気候変動による水害の激化、そして公衆衛生や水の汚染問題についても学ぶことができる。

- ◆ 「安全・安心」に関して外部にどれだけオープンにするのかを議論したい。

9 ) <ビジョン 3 地域最大規模の公共施設である点を踏まえ、可能な限り小学校・地域が共用できる施設とするとともに、将来にわたって共存しづく競られるよう、柔軟で効率的な施設とします>

- ◆ 【分かりやすい言葉】地域が、地域のために、地域をつくる学校
- ◆ 【根拠】国土交通省が平成 28 年に発表した『生産性革命プロジェクト』は「空官民ホ ー タ ー レス化の都市空間創出」を提案。すでに区立小学校は災害時の避難所になっているが、その重要性を活かし、地域の人々が交流する多機能な空間を設けて、地域づくりを促す拠点にもする。

10 ) <目標 I. 多様な学びの場を備え、質の高い学習環境を備えた学校づくり>

- ◆ 学年により、教育原理が違うので、順応的に使える教室が欲しい。
- ◆ 児童数の変動（増減の変動）に対応できる校舎。特に、約 10 年後から児童数が減っていく予測なので、小学校の教育活動だけでなく、他の地域の活動にも対応できるような教室づくり。（取組 H も参照既）

11 ) <取組 B. 電子黒板やタブレット型情報端末などの ICT 教育環境を充実させ、児童が自ら考え、判断し、表現する力を育む施設とします>

- ◆ 電子黒板や投影用スクリーンは今後も必要となると思うが、部屋を暗くするためカーテンなど必要。
- ◆ スマホ依存症やインターネット依存症が精神科医では問題化されており、デジタル端末の教育効果はまだ証明されていない。もしくは逆効果があることとして、米国ではすでに一部の学校でのタブレット利用の見直しが始まっている。児童にスマホやタブレットを禁じている保護者もいる。アップル創業者のスティーブジョブスも自分の子供にはタブレットを持たせなかった。
- ◆ ICT と「自ら考え、判断し、表現する力」の関連性が見えない。これは、コーディングなどの学習のことか？それともタブレットなどを使う映像やプレゼンづくりか？この関連性を明確にする。

12 ) <取組 F. エコスクールを基本とし、快適で温もりのある施設>

- ◆ 「エコスクール」に関して、具体的に何が「エコ」なのかを説明することが必要である。(教育委員会で既に「エコスクール」の定義があれば、情報共有が欲しい。)
- ◆ 雨水をためるための地下貯留槽や、雨水を浸透させる(下水道に流出させない)仕組み。(グリーンインフラを導入)
- ◆ 持続可能な発電装置(太陽光発電、地熱発電、風力発電)や太陽熱利用を設ける。
- ◆ 屋上や校庭の緑化を図る。
- ◆ この取組などを環境教育に使えるようにする(例えば、SDGsの枠組みの中に位置付けることや、その環境に対する効果(炭素削減や水量浸透量)などをモニターできる体制作りも必要である。)
- ◆ <国レベルでの動き> 平成27年度に閣議決定された国土形成計画、第4次社会資本整備重点計画では、「国土の適切な管理」「安全・安心して持続可能な国土」「人口減少・高齢化等に対応した持続可能な地域社会の形成」といった課題への対応の一つとして、グリーンインフラの取組を推進することが盛り込まれた。

### 1 3 ) <取組 VI. 地域の防災拠点としての十分な機能を備えた施設整備>

- ◆ 防災拠点の定義を明確にしたい。
- ◆ 今まで小学校が防災拠点と言われると、災害が起きた後に避難する場所、応急手当をする、そしてその避難生活を支えるための水や食料が備蓄されている施設、と思われている。しかし、「防災」の幅広い定義は、災害を防ぐことも含まれており、耐震建設や、川の氾濫に対して堤防で街を守ることも「防災」である。
- ◆ この「防災拠点」とは、氾濫が多い善福寺川、そして内水氾濫が起きる地域を守るための、雨水管理技術を、建築と造園の計画に取り込まれる。
- ◆ ライフラインとされる水、そして電気も自給できるような施設が必要。
- ◆ 防災装置に関して、児童が常に訓練をし、使い慣れることで、災害時に施設をフルに活用できる。災害時の時には、使い方を学習している児童が地域の人に伝えるようにできることが大事である。

### 1 4 ) 教室―校庭―公園の動線 <取組の追加> (ビジョン1)

- ◆ 教室―校庭の動線



- ◆ 教室の隣（南側）に設置するベランダ・デッキは避難のためではなく、校庭にアクセス可能な動線として使う。下足箱もそのベランダに置き、各教室からすぐ校庭に出れるようにする。
- ◆ 児童は、とにかく休み時間に遊びたい。できるだけ早く外に出たいので、どの教室からでもすぐ校庭に出れるようにしたい。
- ◆ 特に低学年は階段が大変なので、校庭アクセスを大事にしたい。
- ◆ 教室—公園の動線
  - ◆ 学校から公園にアクセスできるようにする。
  - ◆ 歩道橋やトンネルの設置を検討する。

#### 15) 校舎の構造について木造、鉄筋コンクリート（取組 G, H）

- ◆ 木造と RC 造が欲しい。
- ◆ 今回改築した学校校舎は 80 年と想定している。コンクリートの寿命は 50 年。木造は千年（京都のお寺）。木造の建物は歴史が刻まれ、建った後から馴染み味わいが増す。
- ◆ 現在は、木造でも耐震、耐火の技術が進んでいて、2020 五輪の建築でも木材は使われている。
- ◆ <根拠> 日本の国土は、戦後林業政策により針葉樹中心の植林のために、現在危機に至っている。人工林が放置され、大雨や台風の時には、土砂災害を起こしやすくなっている。この「スギ」などの針葉樹を使って「スギ二」小を改築することは、日本国土を守ることにもつながる。

#### 16) 図書室

幼児コーナーを設置、一般公開ができるようにする、多目的な空間とする。

#### 17) 学校を囲むフェンスは生垣が良い。

#### 18) 三年坂、そのほかの道路

- ◆ 三年坂は拡幅しない方が良い。三年坂を運搬用道路として、工事中に拡幅するかもしれないが、三年坂は児童が通るとても貴重な道路である。消防車が入る必要は今のところない。安全面を考えると拡幅は危ない。

- ◆ 北側にも鎌倉街道と公園を結ぶ道路の要望もあるが、同じくこれは児童の安全、そして学校の敷地面積をできるだけ広く取りたいこともあり、この意見は望ましくない。
- ◆ 三年坂の横には、学校の敷地の一部を使って雨庭を設置する。道路から流れる雨水を雨庭に誘導することにより、公園沿いの道路の内水氾濫を防ぐことができる。(グリーンインフラ、ビオトープ)

## 19) ユニバーサルデザイン

- ◆ 学校利用者の多様性に対応するためにユニバーサルデザインを導入する。

### < 『基本方針』を決めるプロセス、今後の改築懇談会の運営について >

- ◆ 5年生は、PTAの学代主催の「お楽しみ授業」で、児童が建築のことについて学び、意見を集約する授業を考えています。改築懇談会のメンバーにも案内を送り、積極的に参加をお願いしたいと思っている。9月、10月に4回の授業として開催される。